

## 第4回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会まちづくり部会議事録

- ◆ 開催日時 平成26年7月1日(木) 18:30～ 20:00
- ◆ 開催場所 第1委員会室
- ◆ 出席部会員 部会長 中原 義勝  
副部会長 渡部 雅子  
部会員 山田 正幸  
田中 寛志  
稲葉 一彦  
工藤 隆行  
成田 育磨  
堀井 貴之 (市庁内検討委員会 部会長)  
【総務部次長】  
沼田 久人 (庁内検討委員会 副部会長)  
【市総務部企画調整 G 総括主幹】
- ◆ 欠席部会員 部会員 川島 雅司  
松本 崇之
- ◆ 事務局 【兼】沼田総括主幹、上野企画主幹、西川原主査、菊地主査
- ◆ 議題 「第6章担いあうまちづくり」に関する考え方及び体系図について

### ◎部会長

前回は体系図の協働のまちづくりについて協議させていただきましたが、まちづくり基本条例、市民自治推進委員会が大きなテーマだったと思います。

今日の出席メンバーを見ますと少し話が飛ぶかもしれませんが、国際交流の話ができないかと考えています。

国際交流とは何なのか、国際交流団体がどのような活動をしているのかお聞きしたいと思います。

### ◎部会員

私の所属団体の話ですが、現在は難民衣料に取り組んでいまして、広報や新聞で周知した中で、市内3カ所で市民から衣料を受け入れて、NPO 日本救援衣料センターに送っています。

サミットの年には市の職員の方にも手伝ってもらい実施しましたが、相当量が集まらなるとコンテナ代で赤字になってしまいますので、国際交流の基金がありますので補てんしながら行っていますが、いずれ基金が尽きてしまうと継続は難しいのかなと思います。

さらに海外留学生の受入を行っていましたが、仲介する団体が諸般の事情で事業継続ができなくなったため、受入れを休止している状況にあります。

実績としては30年近くの活動があります。

## ◎部会員

会が発足したきっかけですが、デンマーク側の友好協会の会長であるリズィー・サンダーさんにデンマーク協会を作らないかと投げかけられデンマークとの交流に特化した団体として生まれました。

マリパークニクスができた時に合唱団があり、その時に来日したリズィーさんが、ホームステイした時に提案されたと聞いています。

その時すぐには出来ませんでした。当時の国際交流会はほとんど市の補助で運営されていましたが、デンマーク協会はお金が無いので、団体を作るためには事業を持たなければならなかった。

デンマーク協会はすべて自費で運営していき、市からの補助も期待できないことから、すべて会員負担で行っているほか、自分で事業を行い基金を積み立てています。

一番大きな事業としては、年に1度のデンマーク青年の受け入れですが、こちらからもデンマークに派遣をしています。

独自の事業は自分たちのお金で行っています。

お祭りへの出店も自主財源の確保とデンマーク協会の宣伝にもなるかと思いましたが、宣伝効果はそれほどでもなかったです。

最初のうちは貧乏な会で大変でしたが、月の会費を600円いただく中で、ニューズレターを発行したり親睦会を行ったり、5年に一回ぐらいの間隔で会員がデンマークに行つて交流を深めています。

海外の友達の家で宿泊して帰ってくると日本ではわからない風土、風習が理解でき、ホームステイをすることでホテルに泊まるだけではわからないものがわかっていきます。

国際交流とはなんだろうと思っていたが、行ってみるとわかる、受け入れるとわかる。

日本人はお客さんが来るとすごくもてなすが、外国では違います。

普段の生活で迎えてくれます。

## ◎市庁内部会副会長兼事務局

市の事業で中学生をデンマークに派遣した時は、ホームステイ先でお弁当を持たせてもらって、どのようなお弁当だろうと開けてみたら生の人参だったということもあるようで、身をもって異文化を体験できることになるようです。

## ◎部会員

当時の総理大臣だった竹下総理が、ふるさと創生資金の1億円があつて、登別市は人材

の育成に投資するという事であった。

そのような資金で人材育成した人間がまちに還元しているのかと思う。

我々からすると無駄な金を使ったなと思う。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

ふるさと創生資金はデンマークへ中学生を派遣する原資として積み立てたものを使ってきました。

行った子どもたちが「どう成果があったのか」、「どう効果があったのか」、「登別で何をしてくれるのか」といった論議は今までもありました。

そもそも海外に行って「成果」、「効果」と言われても、なかなか明確なものはないです。

ただ、一番多感な時期に海外へ行って、今までと違う生活、言語を体験してカルチャーショックを受け、成長していただきたいとの思いで事業を行っています。

具体的な成果を示すのはむずかしいと思いますが、行った子供たちの話を聞けば、本当にいい経験をしたと言っています。

実際にその経験を活かして、例えば英語の関係の仕事に就くのかというのは、ちょっと短絡的なお話で、なかなか難しいと思います。

登別出身の子どもたちがどこの場所であっても、登別市での経験をもとに羽ばたいてくれればいいのではないかと考えています。

### ◎部会員

団体もそういうことを念頭に置いて活動しなければならないと思う。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

登別市の国際交流としては、何のために国際交流をするのかと言うと、日本国内だけではなく、広く海外の情報も収集し、市のために役に立てたいということもありますし、交流することによって、いろいろな人間関係の中から、新たなまちづくりを生みだせるのではないかという思いであり、国際交流の原点だと思っています。

ただ、ちょっと色合いが違うのは、登別市は観光を基幹としているまちですので、観光に軸足を置いた交流もあると思います。

デンマークで言いますと、観光とは違って、人と人とのつながりの中から交流を進めていまして、今はデンマークのファボー・ミッドフュン市と言うところと友好都市協定を結んでいます。

デンマーク協会が毎年、青少年を招聘してデンマーク協会で様々な文化体験をしていたくのと、日中は市役所にいますので、小学校や保育所との交流により市内の子どもたちへの異文化交流を担っていただいている状況にあります。

今年についても、8月15日から1カ月の間、アマリエさんと言う19歳の女性がやっ

てきます。

その他にも突発で来られる方がいまして、昨年度も医療について学びたいと人間がいると、先方の市から依頼がありまして、受入れを行い訪問先を手配して体験してもらったこともあります。

中学生の派遣についても、8月11日から8月18日まで、デンマークへ訪問することになっていますが、今は基礎的な英会話やデンマークについての基礎知識など事前研修を行っています。

派遣団の団長は市の職員が担当し、その他に英語の先生が引率します。

今回も機会があったときに、明日中等教育学校の先生とお話しした中でも、実際に海外に行った子供たちはどういう印象なのかと聞いたところ、本当にいい経験だった、将来この経験を活かしていきたいというような話は聞いているようです。

帰ってきた中学生も、こちらで報告会を開催しますので、その場で経験を披露しています。

その他にアメリカ合衆国のサイパン市は、当時の上野市長とツデラ市長との間で子どもたちに雪を見せてあげたいと投げかけられ、子どもたちを受け入れるようになりました。

それがきっかけで友好協定を結ぶこととなりましたが、今年度も受入れについて投げかけているところです。

もう一市は中国の広州市で、10年ぐらい前に交流がスタートして、一昨年に友好都市を正式に結びまして、昨年度に広州市の国際交流を担当する方たちの訪問も受けまして、これからの交流の話もさせていただいています。

広州市とのお付き合いについては、基本的に観光を基盤として、ぜひ広州市民の方たちが登別市へ遊びに来ていただきたいというのが望みとして持っているところでもあります。

そういう事では、広州市だけは意味合いが違うのかなと思っています。

それ以外も今は休止していますが、クレアと言う国際交流関係の全国的な組織の事業で、中国ですとか海外の自治体職員を市で受け入れ、研修していただく国際貢献事業も長い期間行ってきました。

登別市はある程度先進的に取組んでいるということで、事例発表の場があったほどです。

## ◎部会員

観光都市だから観光として友好関係を結ぶ都市があるなら、市としてのメリットを考えてデンマークから何人の人が観光に来ているのかと考えると、個々人の能力や知識を広げるのではなく、観光を活かすようなお付き合いを、どうせ交流するならしたほうがいい。

## ◎市庁内部会副会長兼事務局

そういった考え方もありますね。

## ◎部会員

我々はメリット、デメリットをかんがえているわけではない。

個人個人の感性を磨くためにあるのだと思う。

決して成果を求めるものではない、観光に繋がればなお良いのだろうけど、求められているものは、そのような交流ではないのではないかな。

## ◎副部長

国際交流では、私たち日本人が他の国の文化を子供のうちから知るの大事なことだと思います。

これからの未来を担う子どもたちには、異文化を学んで、違いに気づいてもらうことが大切だと思う。

## ◎市庁内部会副部長兼事務局

両部会員の言うとおりに、色気がある国際交流もありますし、そうでなく人と人の交流に価値を見出す交流もありますし、その前に根本の話をさせていただきますと、外国人が歩いていて、「なんだあの人」と珍しそうに見たり、指をさしたりしないように、そのような日本人特有の行動が登別市にはまだありますから、ALTの人と話をしたときに、珍しいと思われることが多いし、例えば箸を使って食事をしていたら、いろいろな人に箸使うの上手ですねと言われたりする、日本語をしゃべったらお上手ですねと言われる。

それが我々日本人の感覚なんですね。

## ◎部会員

それは分かるけれども、まちづくりの基本計画を作るわけだから、その軸足を登別市のまちづくりにとってメリットのある国際交流をやるのか、異文化交流に軸足を置いて基本計画を作るのか。

## ◎市庁内部会副部長兼事務局

登別の市民が国際的感覚を身につけてもらいたいというのがあります。

海外から登別に観光に来られた時に、指をさすような失礼なふるまいをしないようにしたいという国際化もあります。

その他にも防災の関係で言えば、外国の人が来て被災しても大丈夫なように他言語化した看板をつけるなど、様々なものに派生すると思います。

## ◎部会員

国際化することには大賛成です。

## ◎部会員

外国に国際交流という言葉はないと聞いたことがある。  
今はわざわざ教育しなければならない。

## ◎副部長

基本計画として色気のある国際交流を秘めながらも、色気を前面に出してしまうと、何かいやらしい国際交流になってしまう気がします。

## ◎部会員

海外体験は年齢が小さい時に行くほうが効果的だと思います。

中学生のホームステイなどを仲介するきっかけになったものは、ふるさと創生基金の人材育成事業で、ニュージーランドに1カ月行かせてもらって、その時にレポートを書いたのですが、その時に小学生の派遣を提案したのですが、小学生では早いのではないかということになったのですが、その時にデンマークとのお話がありましたので、対象はデンマーク、中学生となり、事業が始まりました。

いつ返すかという話ですが、親が子どもを育てるのと同じで、結果を求めるものではないと思います。

大事なのは事業を続けるということだと思います。

教育ですからすぐに成果を出せというのは無理であって、目先の利益を考えていたらできないし、費用対効果で考えたら廃止になる。

大きな視点で物事を考えないと、事務事業の見直しに引っかかって廃止になってしまう。

中学生の派遣の関係もこれまで様々な検討が合って、例えばLCCの利用ですとか、経済性を考えて何とか継続した方がいいと過去に検討をしています。

その時に継続という考え方となってよかったなと感じています。

一番大切なことは続けるということだと思っています。

## ◎市庁内部会部会長

すべての人に理解されにくいという問題はありますね。

## ◎部会員

国際交流は時間がかかるものだと考えている。

## ◎市庁内部会部会長

事業に参加されたには良い評価を頂いているが、参加していない人から見ると何のためにとという感覚があるのだと思う。

## ◎部会員

参加しないというか、外国に行って、なれない家にホームステイしてと考えると、敬遠してしまう。

ただ外国の人は泊まれるならどこでもいいというか、ホテルより一般家庭の方がその国の文化に触れることが出来ていいという考え方を持っている。

## ◎市庁内部会部会長

それであれば市民全員にこの事業の良さを理解してもらうためにはどうしたら良いのか。

## ◎部会員

そのためには長いスパンで考えないといけない。

まずは交流を続けないといけない。

観光であれば観光協会が先方に行ってプロモーションすればいいと思うが、それはその時限りのものである。

## ◎市庁内部会部会長

観光の話も出ましたが、ただの観光旅行ではなくて訪問した先で、ホームステイを行いいい思い出をつくるのですが、観光であっても地域の人間との交流が必要だと思う。

## ◎部会員

今年もデンマークから研修生を受け入れるということで、ホームステイ先を探しているのですが、手を上げてくれる人が少なくなっている。

## ◎部会員

大学時代は留学生と交流がありましたが、私達は成長してから交流しているから、苦手意識がどうしても抜け切れない。

私の娘は4歳だが日本語もままならないのに英語をしゃべっていることは理解しているようで、幼い子供であれば先入観もなく好奇心も強い。

時期尚早というものもあるかもしれませんが、デンマークから受け入れた時も幼稚園などで交流をすとか、幼いうちからの接触が必要なのかなと感じます。

## ◎市庁内部会副部会長兼事務局

国際交流とは何なのかなというお話になるのですが、国際交流を行う意義とは何なのかなということなのですが、もともと国際交流が始まったのは景気のいい頃であるのですが、景気が悪くなったらやめていいのですかということもあります。

日本語を公用語としている国は日本しかなくて、同じ島国でも移民でまかなう国とは違

い、他の言語を喋る人が周りにいるかというといない環境で、世界的に見れば珍しい方なのかもしれないです。

ヨーロッパでも国境がありますので、ちょっと行けば他の国があったりしますが、日本はそうではない。

日本人が海外で活躍するためには、まず外国人に慣れなければならない、外国語に慣れなければならない、外国の文化に慣れなければならないと日本人特有の頑張りという感覚なのだと思います。

そこで市民の皆さんにただ頑張りなさいと入っても難しいですから行政がやらなければならない。

中には民間の方にも協力を頂いて、国際交流団体の方と連携をして、なるべく海外で活躍したいという方たちの素地を作っていきたいと考えます。

これから世界に羽ばたける子どもたちを育成するという観点が大切なのかなと思います。

そのためには、ALTなどを活用するのですが、ALTを見慣れている子どもたちは、おそらくALTを見ても指を刺さないでしょうし、奇異な目で見ないでしょうし、子どもたちは吸収力も合って、英語をしゃべることに恥ずかしいという感覚はないと思います。

行政としてもまずは海外に慣れてほしいという思いがあるのだと思います。

まずはその素地づくりのレベルをまだ超えていない気はします。

長い視点で継続していくことが肝要かと思います。

行政では国際理解講座というものを行っておりますが、この講座では友好都市だけではなくて、昨年は南極の探検隊に参加された方のお話ですとか、メキシコに教師として派遣されていた方のお話など、海外での経験を知っていただこうと講座を開催させてもらっています。

## ◎部会員

なんのためにやっているのかも大事だが、逆に実際に体験した人達を集めて、登別のまちの国際交流を考えてもらうことも必要だと思う。

## ◎市庁内部会副部長兼事務局

そのために、国際交流会からとデンマーク協会から推薦いただいた方をこの場に参加していただいています。

ただ登別のまちにはそのような方たちがの絶対数が少ないとも認識しています。

## ◎部会員

団体活動していても交流にかける資金が少ないのが課題となっています。

補助を貰わないで活動するには、どうしても限界があります。

### ◎部会員

市は予算を持って行うべきだと思う。

### ◎部会員

昔は補助金があったのだが、費用対効果の問題なのか成果が見えづらいというものなのか分からないが今は無い。

### ◎部会員

まちづくりは金がないからできないというのは役所の人々の逃げ道だ。

消防署の建築が2年や3年遅れたってそっちの方にお金をかけようと、臨機応変なお金の使い方をすればいいのにさ。

### ◎部会員

役所にとっては、成果が見えないというのは、もちろんすぐに見えるはずはないのだが、市民にも理解してもらえない。

### ◎市庁内部会部会長

国際交流団体の活動はうちわで活動している雰囲気がある。

一般の方たちが参加するのは難しいのかもしれない。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

国際交流に即効性の成果を求めるのは難しい。

道路や建物を作っているのとはわけが違う。

目的が何なのかという話になるのですが、人材育成が目的の一つだと考える。

これはある程度お年をとった方ではなくて、子どもたちなのだと思います。

### ◎部会員

次代を担う子どもたちが海外の文化を経験して、何か影響を受けて成長してほしい、それでいいのだと思います。

### ◎部会員

将来市長になった人が、派遣事業でデンマーク行ってきましたと言ってくれば最高じゃないですか。

### ◎副部長

私の知っている人で、中学生で海外を経験して、大学生になって自分でアメリカにホー

ムステイして勉強している。

その人は今は登別に住んでいないけど、人材づくりに十分寄与しているなどと思います。

その人は今でも英語を活用して仕事している。

このまちだけでの、成果ではなくて、もっと広い視点で見るべきだと思う。

### ◎部会員

国際交流とはきっかけづくりだと思います。

それから先は自己責任だと思います。

そこからは、個々人を取り巻く環境などが影響しますから、やりたくてもやれないことだってあるでしょうし、大事なのはきっかけを作ってあげることが大切なのだと思います。

なかなか個人では交流出来ない人もいます。

親の経済状況とかもありますから、市がきっかけとして事業を行い敷居を低くしてくれれば、本人の意志の力で参加できる状況にするのが、そういう環境づくりが大切なんだと思います。

### ◎部会長

交流するにあたりホームステイ先が先細りと言うのは心配です。

僕自身は国際的な感覚というのは持ち合わせていないが、個人的には興味があります。

そのようなチャンスが有るのなら、ホームステイ先として受け入れしてもいいなと感じています。

そのような取り組みの宣伝をどのように行っているのかなと、何か決まった中で行われているような気がする。

### ◎市庁内部会副部会長兼事務局

今日参加されている人たちの家庭であれば、こちらからもお願いしたいと思いますが、ただ一般的に公募をかけて、手を上げてくれた人の素性もわからない中で行政から預けるというのは難しい側面もあります。

人のつながりがあってお願いできる方じゃないと難しいですし、逆にこちらから派遣する中学生のホームステイ先についても、単純に公募されて誰かわからないですけど、という状況でしたら派遣できないと思います。

### ◎部会員

自分の子供は海外で経験させたいけれども受け入れるのは難しい。

そのような人が多いと思います。

## ◎市庁内部会部会長

現実的には英語が喋れないと親の立場としてはかなり難しいと思います。

## ◎副部会長

私は観光ボランティアをやっていますが、欧米の人は見てすぐわかりますが、アジア圏の方は見た目だけでは判別つかないことが多いです。

「無料で観光ボランティアをいたしますよ」と笑顔で話しかければ、言葉は通じなくても通じ合える。

## ◎部会員

これまでホームステイを受入れた経験では、「バスルームを貸してほしい」というので、お風呂場に案内すると違うと言われてしまう。

詳しく聞いてみるとトイレを貸してほしいということだった。

向こうの国ではバスルームにトイレが設置されているのが普通で、このようなことを知り合えるのも異文化体験だと思います。

## ◎市庁内部会部会長

今後、団体としての活動が広がっていくのかという部分と、国際交流の目的というものがおぼろげながら理解できてきて、公費を投入して行うのかを整理したい。

## ◎部会員

今後も中学生をターゲットにしていきたいと思っている。

デンマークに派遣されて帰国した後、団体に加盟して活動してほしいというのが一番の思いになっている。

会費はそれほど高いわけではないと思うのだが、行ったというきっかけはあるのだが、活動は難しいというのが現状。

## ◎部会員

国際交流が必要かどうかというところと、必要だとするのであればそれで何を望むのか。

求めるためにはどういう方法があるのか、そこで得た成果をどう把握するのか、そしてどのように登別市に還元していくのか。

ちゃんと計画に位置づけておかないと、ここに書いてかることが漠然としたことであれば、意味が無いと思う

## ◎市庁内部会副部会長兼事務局

ちゃんと位置づけるというのは具体的にどのように位置づけるということなんですか。

### ◎部会員

「ただ必要だ」ではなくて、何を学ぶのか、何を体験するかということを、2期計画でも書いてあるように、地域の国際化に推進しますなんて、こんな漠然としたことを書いても意味が無い。

### ◎市庁内部会部会長

基本計画では事業の入れ物を作っているわけで、細かな話というのはあくまでも事業決定の時に出てくるものと思います。

今は方向性を決めたいということで入れ物を作っている。

### ◎部会員

やっぱり基本計画というのは、そのような思いで作っていかないと意味が無い。

### ◎部会員

最初は物見遊山な気持ちだったり、不順な動機も合ったのかもしれないが、このような団体を作って、交流を続けて、成果は何もないではなくて、「このような経験をしたな」という方たちが集まって60人ぐらい参加する団体になったのだけでも、だんだん高齢化して若い人が入ってこない。

中学生たちに入ってもらって活性化したいと思う。

### ◎市庁内部会副部会長兼事務局

中学生たちの報告書は市のホームページにも掲載しているので見てほしいなと思います。

国際交流は種まきでしかなくて、きっかけづくりをしてあげますよということで、その後の水と肥料は自分で考えてくださいということだと思います。

その後どのように育つかというのは人それぞれなのかなと思います。

ただ、色々な所に種をまかないと、島国感覚の人たちだけになるのは市としてどうなのかなと思います。

### ◎部会員

それなら基本計画をそのように作ればいいじゃないの。

### ◎市庁内部会副部会長兼事務局

そのような路線はみなさんにとってどうなのかなというところです。

### ◎部会員

もう一回行ってみたいという人は率先して応援して行かせてあげてほしい。

### ◎部会員

きっかけづくりというのはその通りだなと思いますが、中学生は受動的すぎるのかなと思います。

### ◎部会員

自分がいきたいと意思表示を行うことで派遣されますので、全てが受動的というわけではないのだと思います。

### ◎部会員

派遣された子どもたちが、主体的に研修したいことを考えるのか。

### ◎市庁内部会副会長兼事務局

事前に学習するテーマを決めて、事前に調べて学んでくるということを行っています。

国際交流を進めた先にどんな理想の姿を描くのかということなのですが、国際的な感覚を持った人材を登別市において育成した後に、どのようなまちづくりがあるのかということなのですが、最低でも外国人に対して指を刺さないですとか、市内の商店などで物怖じしないでコミュニケーションを取れるというのが一つ形なのかなとは思いますが、外国人が登別に観光に来て楽しいまちだったなと帰ることができるようなまちになるべきかなと思います。

例えばどこかに食事に行っても、メニューは日本語しかなくて、店員さんに話しかけても対応してもらえないような状況ではなくて、自分ではよくわからないけど誰かに作ってもらった英語のメニューがあって、それでなんとか対応できるのもいいのかなと思います。

国際化を進めた先には、外国の人が来ても特別な状態にならなくても済むというのが一つの形なのだろうなと思います。

### ◎部会員

小学生の頃にデンマークから来た方との交流を経験させていただいたので、特に自分たちの年代では特異意識はないと思います。

### ◎部会員

そのような人たちが増えてくれば、変わってくると思いますよね。

### ◎部会員

そのような中でも、メリットを求めるのであれば、ホスピタリティの向上があるのかなと思います。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

特異意識がないと言える年代はそのままでもいいのかもしれない。

まだまだそうではない世代もあります。

そのような方たちをターゲットとした施策が必要なかもしれない。

### ◎部会員

登別は国際交流が盛んだから、外国人が観光で訪れたら「おもてなしの水準が他市とは違うね」と言われるようなまちづくりにすべきです。

### ◎市庁内部会部会長

外国人観光客は昔から比べるとかなり人数が増えていて、旅行のスタイルも団体客から個人客になってきている。

そういうことから個人商店でも対応していかなければならない。

それが出来ないようであれば、観光地としておもてなしも出来ないまちになってしまう。

### ◎部会員

先程から継続することが大事だという話になっていますが、この取組が対外的に見てまちの魅力にならないのかと思います。

「子供を育てるなら登別がいいじゃない」というところまで評価をいただければ、引越してもらえるかもしれない。

そこあたりに成果があって、人が集まるということは住みやすいということであり、まちに魅力があるということですので、そこあたりにつながればいいのではないかと。

### ◎副部長

まちづくり意識調査の結果を見ましたが、若年層であれば若年層であるほどこのまちに愛着がないように読めます。

若い方にとってこのまちは魅力がないのかなと思います。

ここのまちに住み続けたい、どこかのまちから引越したいと思えるまちにはどうしたら良いのかと思う。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

まちの魅力とはなんだろうと考えると、世代によって違うのかなと思います。

いっぱい買い物ができるれば魅力があるとなれば、札幌なのかなと若い方は思いますし、高齢者の方がここのまちは雪かきの負担が少ないから魅力だとなれば、登別も魅力があるかもしれないと、世代によって魅力は変わってくるのかなと思います。

## ◎部会員

工大生など若い世代を集めてワークショップを行うのですが、話題になるのはハードに関するものがとても多いです。

10代、20代はそうなのかなと思います。

30代になるとそうでは無くなってくるのですが、自分たちはハード整備するものではないと理解しているのですが、若い方たちの考え方は違うのかなと思います。

やはりソフト整備が必要だと思いますので、こういう場で提言して行くのかなと思います。

## ◎市庁内部会副部長兼事務局

体を動かしたい方であれば体育施設があれば魅力だと思いますし、逆にずっと都会に暮らしていて、何もない田舎に魅力を感じるという方も中にはいます。

自分が何を求めているのかということなのですが、子育てしていて6歳以下は医療費無料だとなれば当然魅力でしょうし、でも子供のいない方ですとか、子供も孫も大きくなってきているのであれば、昔は魅力だったと思いますが、今はもう魅力を感じないのだと思います。

すべての魅力をこのまちで兼ね備えるというのは無理ですので、広く取組むか、近隣のまちよりこの分野は魅力があるよう取り組んでいくのかということだと思います。

## ◎副部長

まちづくり意識調査の市民自治と協働の所で、不満、やや不満の割合が高い。

## ◎市庁内部会部会長

なんとなくはっきりとしない不満を持っている方が多いのかなと思っています。

「不満ですか」と聞けばよくわからないけど不満かなと感じている方が多いような気がします。

## ◎部会員

協働というものが理解されていないのだと思う。

## ◎部会員

協働のまちづくりについてセミナーや勉強会も行うが、登別には94の町内会があるが、協働のまちづくりをいいことに、連合町内会は市からの依頼を何でも受けてくるが、各町内会長は大変だと言っている。

しかし協働のまちづくりが何かと考えれば当たり前のことだと思う。

基本的に協働のまちづくりは、市民ができることは市民たちでやりますというのが基本

で、その範囲でしかやっていない。

行政と協力するところは協力して行うのが当たり前で、自分にとって楽か、楽でないかだけで判断するので、アンケートもきっとそんな回答になってしまう。

このような場で市民と行政が対応の立場で話しあうように、コミュニケーションがないとそのような意識が芽生えないのは確かだと思う。

今のように一つのテーブルについて、同じ目線でひとつのテーマを話し合うのが大切で進歩していると思う。

そこから初めて協働のベースが出来ていくのだと思う。

ホントは議会ベースで議員がやってほしいとも思う。

### ◎市庁内部会副会長兼事務局

国際交流は皆さんの気持ちを一本化するというのは難しいかもしれないけれど、子どもたちをベースに国際化していくための素地づくりをしていく、それが一番大事なのではないかな。

今後体系図を見ていく中で、行政としてやれることは何なのか、民間としてやれることは何なのかということ整理していきたいと思います。

### ◎部会長

それでは次回の開催ですが、今回は17日と前回の部会の時に決めておりますので、その日程で行いたいと思います。

今回は国際交流の体系図に入りたいと思います。

今日の部会は終了したいと思います。お疲れ様でした。